

## EPO九州オフィス案内

### ● ESDのロゴマークを作成しました

2014年、国連持続可能な開発のための教育(ESD)の10年の最終年として、11月に愛知県名古屋市、岡山県岡山市において、「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催されます。EPO九州では、環境省のESD人材育成事業の地域事務局として、九州・沖縄各県の団体と連携し、学校での実証やフォーラムの開催、イベント出展を行い、ESDに関する取組を進めています。また、ESD活動を九州から広く発信していくために、ESDのロゴマークを作りました。自然や生きものたちと共生し、よりよい未来をつくるため、たくさんの人々と協働で、九州・沖縄をつないでいくことをイメージしています。



### ● 『未来をえがくエコまなびガイド～九州環境教育白書～』ができました!



『未来をえがくエコまなびガイド～九州環境教育白書～』は、九州・沖縄地域の環境教育について、その代表的な団体や活動を紹介するとともに、環境教育が切り開く持続可能な地域づくりについて発信しています。本書では、九州・沖縄のそれぞれの地域をベースとして、環境教育、ESDに取り組む活動事例を紹介。また、九州・沖縄の環境教育のプラットフォームや施設についても紹介しているので、持続可能な地域・社会づくりの活動をする際に、ぜひ活用してみてください。本書は、EPO九州オフィス内にてお渡ししております。

### ● EPO九州オフィスがリニューアルしました

4月1日より、EPO九州オフィス内をリニューアルしました。これまで以上に相談対応を強化し、情報提供を行っています。また、リニューアルに伴い、フリースペースが無くなることとなりました。長年にわたりご利用いただき、ありがとうございました。引き続き、環境に関する情報・資料を展示・提供しております。どうぞお気軽にお立ち寄りください。



## OFFICE

### 九州環境パートナーシップオフィス (EPO九州)

〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-8熊本市国際交流会館2F

TEL 096-312-1884 FAX 096-312-1894

E-mail info@epo-kyushu.jp

URL http://epo-kyushu.jp

業務時間 10:00~19:00 (火~土曜日)

休業日/日・月曜日、祝日、年末年始。熊本市国際交流会館休館日。  
(ただし、臨時休業する場合があります。)



# えぽ九州だより



EPO LETTER

- もくじ
- 巻頭メッセージ 三宅博之氏
  - ESD学びあいフォーラム
  - ESD人材育成事業
  - 協働取組推進事業
  - イベント出展
  - エコパートナー事業
  - ESDプラットフォーム事業
  - 九州地方環境事務所からのお知らせ

## 九州環境 パートナーシップオフィス EPO九州 ニュースレター

2014年 発行



vol.10



## 巻頭メッセージ

## 「地域とつながるESD」

北九州市立大学 法学部教授 三宅 博之 先生



※ESD(=Education for Sustainable Development)とは、「持続可能な開発のための教育」の略称です。

平成25年度、熊本県水俣市、沖縄県宮古島市で開催した「ESD学びあいフォーラム」で、『地域とつながるESD』をテーマに講演していただきました。

### ● 伝えるべきは、知識ではなくマインド

北九州は今、環境未来都市や環境モデル都市となっているが、いわゆる公害を克服したということで、社会科の教科書に載っています。また、企業とかモノづくりといった分野が、環境産業や国際協力というところへすく力を入れようとしており、こういった点で技術というものは世界に匹敵するほどです。また、水俣というのは全国に知られているし、色々な方面からも研究されています。そういった意味で北九州を研究している人は本当に少ない。その点において、マインドとして北九州と水俣では全く違うのではないかなと思う。北九州にもマインドと呼ばれるものをいかに作るか、ということを考えていただきたい。おそらくこの学校教育においても難しい所だと思いますが、これまで水俣で中心になられていた人が亡くなられて、それと同時に水俣を教える難しさというものを実感しています。やはり水俣の心というものも知り続けていただきたいと考えています。

ESDは、まだそのようなマインドというのを、伝えられていないのではないかなと思います。どの子どもたち、どの高齢者にも響くような、知識じゃなくてマインド=心というものをいかに伝えるかというものを、もっと考える必要があると思います。ESDは言ってみれば新しく出てきた、今世紀になって言われてきたことです。要は、環境教育とか国際理解教育とか人権教育とか、それぞればらばらな分野を統合したのが、持続可能な開発のための教育(ESD)だと思ってください。知識だけを覚えて、そしてそれを評価することを改めましょうということで、本格的にESDが議論されています。多様な価値観そして、問題解決能力、そういったことを実践する人、そのような人を育てるということ、持続可能な開発のための教育ESDと呼ぶんだと知っておいていただきたい。しかし、なかなかこれが実践できていない。いかに実践するのかというのがやはりポイントになってくるのです。

ここで言われる学びの方法ですが、よく言われている参加体験型、現実的な課題に実践的に取り組むことが重要です。そして継続的な学びであること。一過性のもものではダメです。多様な立場や世代の人々が地域の資源を最大限に活かし、普段から互いに学び、主体性を尊重すること。当然結果も求めなきゃならないけれど、正解はあらかじめ用意せず、そのプロセスの中で自分がどう学べばいいのかなと考えなければなりません。

### ● 日本、北九州におけるESD推進

ESDを推進しようということで、名乗りを上げている都市や地域というのが世界に120~130あり、日本には6つあります。今年、国連ESDの10年の最終年ということで、岡山と名古屋で最終年会合が開かれますね。2013年10月には北九州で、アジアの地域のESDを推進している都市を迎えて、会議を開きま

した。ESDを積極的に進めている地域ということで、RCE(地域の拠点:Regional Centers of Expertise on Education for Sustainable Development)と呼びますが、日本の場合には仙台、横浜、名古屋、中部、神戸、岡山、北九州がRCEとなっています。北九州の目指すESDというのは環境だけではなく、おそらく水俣や宮古島もこういった形を目指されていると思いますが、市民団体とか企業とか大学とか行政といったいろんなメンバーが、環境とか経済とか社会分野の教育を統合するということ、うまくバランスをとっていかなければいけません。

### ● 九州の環境モデル都市から伝える持続可能な地域づくり

現在、私が関わっている、「藍島プロジェクト」について紹介します。北九州の小倉からも近く、島の魅力に触れて価値を共有し、さまざまな参加者や藍島の人々との交流を行っています。このプロジェクトの趣旨というのは、大学生が小学生と一緒に環境学習をするということ。韓国やベトナムからの漂着漂流ゴミが落ちていますが、これでアクティビティを行うなどしています。こういったことも、大学生の体験型の研修となるのです。

私は、北九州において、特に韓国などと自治体レベルでのお付き合いを、もっともっと進めたいと考えています。言ってみれば、藍島と韓国というのは、東京とか大阪にはない北九州ブランドみたいなものがある。それをもっともっと進めたい。これはおそらく、水俣の場合も「地元学」が有名で、環境教育とかいわゆる環境社会学と言われていものですから、発信力やブランドがすごいですよね。ESDを極めるような形で、もっと発信していただければと思います。

また、宮古島においては、まず宮古島の人々が故郷に愛着を持つこと、その愛着を持っているということ、観光客に伝えてほしい。例えば海においては漂着漂流ゴミの問題が多いが、地元の自然保護活動をやっている人たちは、海開きの前にトラック何台分ものゴミを片付けています。観光客はその事実を知らず、きれいなビーチだと思う。きれいなビーチを見ることができると、事前に自然保護活動をやっているからだと、こういうことをやらないと、海がどんどん汚れていくんだということを伝えてほしいのです。観光客にそのことを伝えることによって、観光客が自分の地域に帰った時に、環境保護、持続可能な社会を作れるような人間になれる。そのことを宮古島で教えてもらったということなればいかなと思います。宮古島は人口5万人くらいなので、みんなで一緒にやろうと思えばできると思う。同じ環境モデル都市に住むものとして、そこを期待しています。

北九州も水俣や宮古島に負けられないような形で、環境モデル都市として頑張っていこうと思っています。

## ESD学びあいフォーラム

2005年から始まった「ESD(持続可能な開発のための教育)の10年」も、2014年に最終年を迎えます。それにあたり、ユネスコによる最終年会合「ESDに関するユネスコ世界会議」が、日本(愛知・岡山)で開催されることから、関係自治体と関わりを持ちつつ、九州地域におけるESDの普及・啓発活動や取り組みの推進を支援するため、地域ESD学びあいフォーラムを実施しました。

これまでの地域におけるESDの取組を集約し、発信するにあたり、九州・沖縄地域の環境モデル都市である北九州市、水俣市、宮古島市の先進的な学びに関する取り組みを共有し、これからの地域の持続可能性に向けたビジョンを深めることを目的に、上記3都市において開催しました。

### ESD学びあいフォーラム in 水俣

- 開催日：平成25年 8月2日(金)
- 会場：水俣市民公民館2階ホール
- 講師：北九州市立大学法学部教授 三宅 博之 氏
- 事例発表：
  - ・ はつの保育園の取組について
  - ・ 市立水俣第一小学校×寄る会「菜の花プロジェクト」
  - ・ 市立水俣第一中学校×NPO植物資源の力「環境教育とエコ改修プロジェクト」

北九州市立大学の三宅先生より「地域とつながるESD」と題し、講演をいただいた後、水俣において取組まれている学校と民間団体等との連携事例について、3つの団体・学校から活動紹介が行われました。意見交換では、環境教育や学びあいの活動をとらえて、子どもたちや関わる大人たちに身につけてもらいたい「力」について問いかけ、意見を書き出してもらいながらグループディスカッションを進めました。



### ESD学びあいフォーラム in 北九州

- 開催日：平成25年 10月19日(土)・20日(日)
- 会場：勝山公園大芝生広場
- 事例発表：あばあこね 高倉 草児 氏

北九州市において開催された環境イベント「エコライフステージ2013」にて、フォーラムを開催。水俣市の若手地域グループ「あばあこね」の高倉草児氏をお招きし、地域資源を活かしたモノづくり、ひとづくりに取り組む活動を紹介いただき意見交換を行いました。参加者からは、水俣のイメージが変わり、足を運んでみたくなったという意見や、地域を活かしていくために、高齢者の方の意見を尊重して縦のつながりを作ることの大切さを知ったという意見が出されました。環境モデル都市である水俣と北九州の市民の交流を通し、九州内の連携を促進する場づくりの重要性を感じました。



### ESD学びあいフォーラム in 宮古島

- 開催日：平成26年 2月16日(日)
- 会場：宮古島マリナターミナル
- 講師：北九州市立大学法学部教授 三宅 博之 氏

水俣でのフォーラムに引き続き、北九州市立大学の三宅先生の基調講演を開催。北九州市でのESDの取組や、宮古島市における離島ならではの地域づくりや人材づくりについてお話しされ、たくさんの意見交換がなされました。エコ推進条例制定に向けて動くなど、先進的な活動をしている宮古島市。しかし、河川が発達していない市内ではすべての水を地下水に依存し、次世代につなげる環境や水の保全が重要となっています。今後、持続可能な地域づくりを行っていく上で、水の大切さ、島民の故郷への愛着などを観光客へ発信し、ESD活動へつなげていくことを強く語られました。



# ESD人材育成事業



平成25年度、環境省ではESDの視点を取り入れた20のモデル的なESDプログラムをとりまとめました。九州・沖縄地域では、そのプログラムをもとに各県の8団体がワーキンググループとして、ESD人材育成事業に取組み、地域に根差したプログラムを検証・実証しました。EPO九州は地域事務局として、ワーキンググループの運営を支援。ここでは、各県の取組を紹介します。

## 福岡

### 身近にあるビオトープから命のつながりを学ぶ

青い地球の会ブルーアースが春日市立日の出小学校（春日市）の6年生に、人や自然のつながりや命について学ぶ授業を行いました。1時限目は「捕食と被食関係」「共生」など川の生態系の成り立ちを学習。2時限目は児童が清掃活動に参加しているビオトープを題材に、そこに生息する生き物のつながりを講師と児童がやりとりをしながら考察していきました。中でも「蚊」に焦点を当て、その一生や果たしている役割を解説し、小さな生き物の大事さをレクチャー。最後に全員がビオトープの清掃を引き継ぐ5年生にメッセージを書きました。生態系の大切さや、人間もその一部であることに気付く授業となりました。



- 実施日 2013年12月12日、2014年1月18日、28日
- 実施校 12月・春日市立日の出小学校（春日市）、1月・北九州市立曾根東小学校（北九州市）
- 実施団体 青い地球の会ブルーアース

## 佐賀

### 開発途上国の水事情から地球人意識を養う

佐賀市立北川副小学校の4年生に担任教師と青年海外協力隊OBのゲスト講師が「命の水～わたしたちの生活と開発途上国の生活～」をテーマにした授業を実施しました。児童がこれまで学校で水について学習してきたことを踏まえて、ゲスト講師がアフリカのマダガスカル島の生活の様子や水事情などを説明。その後、児童は同島で日常的に行われているバケツを使っての水運びを体験し、日本との暮らしの違いを認識し理解を深めました。開発途上国の水問題を切り口として世界に目を向け、自分たちは何ができるのかを考える契機となる授業となりました。



- 実施日 2014年2月13日
- 実施校 佐賀市立北川副小学校（佐賀市）
- 実施団体 認定NPO法人地球市民の会

## 長崎

### “もったいない”が地球を守ることを実感

長崎市立稲佐小学校の6年生に、長崎大学教育学部教授が「つながり、もったいない、無駄を省く」をキーワードにした出前講座を開きました。クイズ形式で人間が出すごみがどのくらい増え過ぎているかなどをレクチャー。足こぎ発電機や風力発電機を利用した発電体験といった実験も導入しました。その他にも、長崎市は水道水をつくるのに他都市に比べ多くの電気を要していることやレジ袋の節約が石油の節約になることにも触れました。児童が日々の生活の中で、水やエネルギーや食べ物の無駄遣いをやめることの大切さをより実感する機会となりました。



- 実施日 2014年2月3日、18日
- 実施校 長崎市立稲佐小学校（長崎市）
- 実施団体 NPO法人環境カウンセリング協会長崎

## 熊本

### 干潟での自然体験から環境保全を考える

「地域の自然を体験・観察し地域で生活することを考える」をテーマに、水と緑ワーキンググループや日本野鳥の会のメンバーが尚綱中学校（熊本市）の1年生に全3回の出前授業を展開しました。1回目は生物多様性について解説。2回目は荒尾干潟やラムサール条約などについての講義と、同干潟での自然や生き物の観察を行いました。その後生徒は各班で学習した内容の感想を述べ合いました。3回目の授業では班ごとに体験学習で撮影した写真をまとめ、「残したい自然や生き物を残すために自分たちができることは？」などについての発表を活発に行いました。



- 実施日 2013年11月6日、13日、20日
- 実施校 尚綱中学校（熊本市）
- 実施団体 NPO法人環境ネットワークくまもと

## 大分

### 身近な自然である校庭の木から意識づけ

校庭の樹木の中から自分の好きな木を選び、その木を詳しく学ぶことから環境の大切さを知る授業を大分市立日岡小学校の4年1組で実施。NPO法人地域環境ネットワークが主導し、自然観察指導員やNPO法人シネマステーション大分や音楽グループ「カセロラ」などの協力で行われました。まずは担任教師と児童が校庭の樹木を観察。各自が選んだ木について講師の解説を聞きました。さらに20歳の自分へのメッセージを自分の好きな木の前で発表する姿を協力団体がビデオ撮影。後日、映像にオリジナルの曲が付けられた映像作品の上映会が開催されました。



- 実施日 2013年11月14日、21日、12月13日
- 実施校 大分市立日岡小学校（大分市）
- 実施団体 NPO法人地域環境ネットワーク

## 宮崎

### 照葉樹林が息づく環境をより深く理解する

NPO法人宮崎文化本舗が綾町の2校で出前授業を開催。綾町立綾小学校では、4年生にネイチャーゲームによる森林環境教育を行いました。児童は講師と共に里山を散策して、ジャンケン落ち葉集めなどのゲームを体験しながら里山の生態を知ることで綾町に息づく照葉樹林の大切さを学びました。綾中学校1年生への授業のテーマは、「大切にしたい綾町の自然」。役場が町民に行った「人と自然のふれあい重要地域調査アンケート」の結果を読み取る学習を行い、その自然がなぜ大切かなどを話し合いました。その内容は同町の多様性地域戦略の参考にされます。



- 実施日 2013年11月21日、2014年2月6日
- 実施校 11月・綾町立綾小学校、2月・同綾中学校（宮崎県綾町）
- 実施団体 NPO法人宮崎文化本舗

## 鹿児島

### 身近な自然と生き物と水のつながりを考察

NPO法人くすの木自然館が、始良市立山田小学校の3、4年生に学校周辺の環境とそこに生息する生き物に関する授業を実施しました。児童は講師と共に田んぼや川などにいる多くの生き物を観察。さらに図鑑などを利用して、それらが何を食べて生きているのかを調査。カエルなどの生き物は、その一種では生きられず、餌となる生き物がいて、さらにその餌となる生き物がある食物連鎖を理解しました。また全ての環境は「水」でつながっており、生活排水による生き物への悪影響を認識。児童は、そのことを学習発表会で多くの地域住民に紹介しました。



- 実施日 2013年10月23日、11月7日、22日
- 実施校 始良市立山田小学校（鹿児島県始良市）
- 実施団体 NPO法人くすの木自然館

## 沖縄

### 伊良部島の生活と水の関わりを認識

宮古島市の上下水道部の職員が、同市立伊良部中学校の2年生に出前授業を実施しました。テーマは「地下水と飲み水」。伊良部島の水道の水について、例えば飲み水にするための処理法など基本に触れた後、地下水から蛇口に至るまでの水道水の過程や浄水処理の仕組みなどを解説しました。さらに、生活排水の行方や下水処理の過程を写真パネルなどで説明。その後、生徒は生活排水の浄化実験を行い、水をきれいにする大切さを体感しました。水の循環やそれぞれが水をなるべく汚さないことが、環境への配慮になることなどを認識する授業となりました。



- 実施日 2014年1月21日
- 実施校 宮古島市立伊良部中学校（沖縄県宮古島市）
- 実施団体 財団法人沖縄県公衆衛生協会

EPO九州では、環境省「地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業」に取組みました。公募で採択された団体や協議会が、環境保全の視点に立った地域活性化・地域づくりを協働の考え方を取り入れながら推進・強化するものです。この事業では、環境保全や地域づくりの具体的な事業に取組むための、協議会活動やネットワークの基盤強化に焦点を当て、中長期的に取り組みを持続させるしくみづくりを支援します。EPO九州では、管内で採択された2団体の取組みをサポート(伴走支援)しました。



## EPO九州の支援取組 ●第1回連絡会の開催

採択決定を受けて、実施団体、九州地方環境事務所、全国支援事務局、EPO九州の担当者による連絡会を開催しました。それぞれの団体が取組む事業計画について情報交換し、協働取組カレンダーをもとにした事業方針や中期計画づくりに向けたロードマップについて意見交換しました。



第1回連絡会の様子

## ●第2回連絡会の開催

事業進捗を共有し、中期計画づくりに向けた課題整理を目的に第2回連絡会を長崎県雲仙市小浜地区で開催しました。採択団体の一つである小浜温泉エネルギーの活動地域はもとより、雲仙国立公園も隣接し、一部九州自然歩道のルート上でもあることから、2つの団体が取組む活動を双方に経験交流するフィールドワークを組み合わせる連絡会となりました。



第2回連絡会の様子

## ●成果報告会

各地で取組まれた事業活動の成果をもちり、さらにブラッシュアップするための成果報告会が東京で開催されました。各団体のブースにわかれて、団体相互の意見交換や専門家による助言をとおり、協働取組の質を高めました。さらにワークショップでは、それぞれの取組が3年後にメディアでどのように取り上げられているか、協働の実現可能性についてグループワークを行い、未来の紙面づくりをとおして中期計画の妥当性を評価しました。



## 一般社団法人小浜温泉エネルギー

小浜温泉地域における温泉資源を活用した低炭素まちづくりと持続可能な観光地域づくりへ向けた協働取組事業

URL <http://obamaonsen-pj.jp/association>  
住所 長崎県雲仙市小浜町北本町862  
雲仙Eキャンレッジ交流センター  
TEL・FAX 0957-74-3345

小浜温泉エネルギーは、地元と産学官が連携して小浜地域の未利用温泉熱・資源の活用を目指して設立されました。バイナリー発電所との連携や観光協会と連携した発信活動に取組んでいます。今回の採択事業では、こうした経緯をふまえ小浜温泉地域における、温泉資源を活用した低炭素まちづくりと持続可能な観光地域づくりへ向けた協働取組事業として、古くからの温泉地である小浜地域(長崎県雲仙市)の観光の在り方を、多様な地域資源を活用した環境保全活動を基軸としたツーリズムへと発展させ、経済的にも持続可能なものとする取組を進めることを目指しました。各主体が地域で取組む活動をつなぎあわせ、地域へ発信する学びの場(定期講座)をつくることも、持続可能な観光地域づくりを推進する協議会のしくみづくりを進めました。



## 環境イノベーションフォーラム in 鹿児島

日時 平成26年1月28日(火) 14:00~17:20  
会場 鹿児島東急イン 2F オリオン

地域資源を活用した再生可能エネルギーをテーマに、『農山漁村における再生可能エネルギーの導入促進について』と題して信夫隆生氏(農林水産省食料産業局再生可能エネルギーグループグループ長)による基調講演と九州各地の事業者・団体による事例報告が行われました。(社)小浜温泉エネルギーからは、事業連携する「バイナリー発電所」が紹介され、未利用温泉資源の活用事例とともに、地域活性化に向けた協働取組、地域団体と連携した環境教育や啓発の取組が紹介されました。



## NPO法人グリーンシティ福岡

九州自然歩道の管理・活用基盤整備事業

URL <http://www.greencity-f.org/>  
住所 福岡県福岡市中央区薬院4丁目5-2-202  
TEL 092-215-3913

グリーンシティ福岡は、「みどりをつくる人を育てる」をミッションに森林保全や環境教育に取組む団体としてリスクマネジメントや合意形成の研修などに取組んでいます。今回の採択事業では、九州各県をネットワークにむすぶ「九州自然歩道」をさらに魅力あるトレイルにするため、「九州自然歩道フォーラム」(協議会活動)の運営をはじめ、おすすめ30コースの選定やウォークイベントの実施、さらに関係機関へのヒアリングや利用者視点からの情報発信等を行います。多様な主体の連携による協働型の歩道管理・活用のモデルを示すことで、より多くの人に親しまれるロングトレイルを実現し、地域の環境保全・環境教育、さらには地域活性化にも資する拠点とすることを目指しました。



## 第3回九州自然歩道ウォーク ～秋のくじゅう坊ガツル編～

日時 平成25年10月26日(土)・27日(日)  
主催 九州自然歩道フォーラム

九州自然歩道の普及事業として開催されたウォーキングイベント。第3回は大分県九重の長者原ビジターセンターをスタートに、タデ原湿原、雨ヶ池を通過、法華院温泉山荘へ向かいました。その日の夜は、「ロングトレイル」の第一人者として国内外のトレイルの魅力を発信し続けた故・加藤則芳さんを偲び、「ロングトレイルナイト」を開催。フォーラムのメンバーでもある、鹿児島大学特任准教授の岡野隆宏氏より九州自然歩道の魅力について語られました。その後、鹿児島島の冒険家・野元尚巳氏よりカナダのウエストコースト・トレイルについての紹介があり、一般の宿泊客も交えてさまざまな意見交換がなされました。



## 平成25年度の実施事業

| 採択団体                                 | 地域  | 採択事業   |
|--------------------------------------|-----|--|
| 公益財団法人 日本環境協会                        | 全国  | 子ども環境教育を推進するための協働取組事業                              |
| 公益財団法人 公害地域再生センター                    | 全国  | 公害資料館の連携-教育・地域再生の経験交流-                             |
| 知床ウトロ海域環境保全協議会準備会                    | 北海道 | 知床半島ウトロ海域の協働によるケイマフリ保護の取組                          |
| 特定非営利活動法人 もりねっと北海道                   | 北海道 | 森で遊ぶコドモと先生を増やす森林環境教育プロジェクト                         |
| 一般社団法人 持続可能で安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会 | 東北  | 東松島市及び大崎市の復興を支援する環境保全協働取組事業                        |
| 一般社団法人 五頭自然学校                        | 関東  | ぼくのごはん～白鳥と人、命をつなげる水ものがたり～                          |
| いきものみつけファーム in 松本推進協議会               | 中部  | いきものみつけファームin松本推進協議会                               |
| 越の国自然エネルギー推進協議会                      | 中部  | 里山と海を結ぶ「ひみ森の番屋」地域内エネルギー循環事業                        |
| 特定非営利活動法人 南信州おひさま進歩                  | 中部  | みんなの環境学習講座   |
| 特定非営利活動法人 いけだエコスタッフ                  | 近畿  | 地域が協働した環境学習イノベーション創出事業                             |
| 特定非営利活動法人 人と自然とまちづくりと                | 近畿  | 子どもによる地域協働と海洋文化の醸成                                 |
| 公益財団法人 水島地域環境再生財団                    | 中国  | 「環境学習で、人とまちと未来をつくる!」協働推進事業                         |
| うどんまるごと循環コンソーシアム                     | 四国  | うどん県。さぬき油電(油田)化プロジェクト                              |
| 特定非営利活動法人 グリーンシティ福岡                  | 九州  | 九州自然歩道の管理・活用基盤整備事業                                 |
| 一般社団法人 小浜温泉エネルギー                     | 九州  | 小浜温泉地域における温泉資源を活用した低炭素まちづくりと持続可能な観光地域づくりへ向けた協働取組事業 |

## 6月は環境月間!エコまナビ環境学習会

**開催日時** 平成25年6月22日(火) 13:30~15:30  
**開催場所** 熊本市国際交流会館 2階 交流ラウンジ

環境月間にあわせて、エコなくらしづくりをテーマに環境学習会を開催しました。

熊本県環境センター、熊本市環境センターの協力により、身近な自然を感じながら環境について意識をもってもらう出前プログラム(押し花のしおりづくり・紫外線とUVビーズづくり)を体験学習してもらいました。

学習会には、くまモンも駆けつけ、子どもたちと一緒に活動を楽しみました。

体験学習をふまえて「エコなくらしづくりに大切なこと」を参加者にエコ宣言してもらい、これからの暮らし方について提案、意見交換しました。



## ながさきエコライフ・フェスタ2013

**開催日** 平成25年10月19日(土)  
**会場** 長崎水辺の森公園

EPO九州初めてのイベント出展となる「ながさきエコライフ・フェスタ」。大雨に見舞われたイベント当日の朝。開催さえ危ぶまれ心配していましたが、雨が止むと真夏のような快晴となりました。EPO九州は、会場内の「よか未来ゾーン」にブースを構え、ESDについてのパネル展示を通して、周知活動を行いました。また、長崎総合科学大学・長崎大学等の学生や長崎市内の環境活動団体に協力をいただきながら、エコ宣言やアンケートなどを実施。真夏のような気候も手伝って、会場内は39,000人の来場者でにぎわい、EPO九州ブースにもたくさんの方が訪れてくれました。



## 北九州エコマンス

市制50周年を迎えた北九州市では、2013年10月に「北九州エコマンス」と称して、さまざまな環境イベントや国際会議が開始されました。EPO九州では、その中の「エコ・ベンチャー・メッセ2013」と「エコライフステージ2013」においてイベント出展しました。

### エコ・ベンチャー・メッセ2013

**開催日** 平成25年10月16日(水)~18日(金)  
**会場** 西日本総合展示場

西日本最大級の環境イベント「エコテクノ2013」にて開催されたエコ・ベンチャー・メッセにて、ESDに関する展示を行いました。会場内には学生から行政・企業の方、一般の方と幅広い来場者が訪れ、さまざまな世代・職種の方へ、ESDについて広く周知を図ることができました。2日目には小学生環境プログラムにも参加し、約35名の小学生に、ESDについて解説しました。難しいテーマではありますが、「自分の地域をよく知ること」「3Rを意識して生活すること」「環境保護活動に参加すること」などがESD活動につながることを話すと、子供たちもよく理解していました。



### エコライフステージ2013

**開催日** 平成25年10月19日(土)~20日(日)  
**会場** 勝山公園大芝生広場

北九州市において開催された環境イベント「エコライフステージ2013」会場内特設テントにて、テーマ「つなげる・つながる未来へ~わたしたちの消費行動が未来をつくる~」の視点から、環境に配慮した風景や出来事を切りとる「デジタルフォトワークショップ」を、2日間開催しました。講師として、写真家の長野良市氏をお迎えしました(19日のみ)。35組の親子・グループに参加していただき、会場内のエコカーや各ブースでの取組の様子など、さまざまな視点で撮影されたエコフォトが集まりました。

## TOTOステークホルダー・ダイアログ2013

TOTO株式会社(本社、北九州市小倉北区)は、社会貢献・地域共生活動の一環としてTOTO水環境基金を設立し、地域の環境保全活動を支援するとともに社員自らが「グリーンボランティア」として地域と連携しながら森林保全や水環境保全に取り組んでいます。

今回、TOTO水環境基金に関係する方々(ステークホルダー)との対話の場である「ステークホルダー・ダイアログ」にEPO九州が協力しました。

ダイアログでは、若者、地域団体、環境NPO、事業者それぞれの立場からTOTO水環境基金と連携した取組や、さらに地域での活動を広げ、発信していくことについて活発な意見交換が進みました。

助成事業をとおして、企業が社員とともに地域に関わるしくみ・モデルを維持・発展させ、広く発信することで、企業から社会へのメッセージを届ける機会づくりへとつながり、さらに多様な主体との協働につながることで意見交換をとおして見えてきました。

会場となった小倉本社・第一工場は工場見学ができます。オートメーションによる製造と思いきや、衛生陶器一つ一つに人の手が加わり、丁寧な作業工程に驚かされます。また、TOTO歴史資料館では、その歴史を垣間見ながら、暮らしと「水」のつながりを再発見しました。

## 国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J) 生物多様性地域セミナー in 熊本

**日時** 平成25年7月15日(月・祝)  
**会場** 国立阿蘇青少年交流の家 中研修室  
**主催** 国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J) 環境省

EPO九州がワークショップのファシリテーターを務め、参加者からの意見を引き出しながら、グループワークを行いました。九州において、生物多様性の普及啓発に向けた、地域事例をもとにしながら、生き物とそのつながりを大切にするための5つのアクション「たべよう」「ふれよう」「つたえよう」「まもろう」「えらぼう」についての理解促進を図り、地域での取組について活発な意見交換が進み、関係機関へのメッセージ・提案として共有されました。



## 東京海上日動火災 グリーンギフトプロジェクト

東京海上日動火災株式会社(本社、東京都)が日本NPOセンター、各地のEPOと連携し地域での環境保全活動を支援する取組「グリーンギフトプロジェクト」をスタートしました。九州地区では、熊本県と鹿児島県が実施地域となり、支店・支店と地域の団体が連携し企画づくり、運営を行います。

### 熊本県プロジェクト

**実施団体** NPO法人みずのとらBELL隊  
**実施活動** 竹炭焼き体験(平成26年3月)  
 Eポート体験と外来水草防除体験(平成26年4月29日、予定)

### 鹿児島県プロジェクト

**実施団体** NPO法人PandA  
**実施活動** 森の散策とダンボールハウスづくり(平成26年4月29日、予定)

EPO九州は企画協力として、活動広報や企画助言を行い、地域の資源やつながりを生かした活動づくりを応援しています。



## 若者活動活性化意見交換会

**日時** 平成26年3月18日(火)  
**会場** 熊本市総合体育館・青年会館  
**主催** (財)熊本市社会教育振興事業団

若者たちの活動が地域のつながりやITネットワークの中でクラウド化しています。それまでの青年活動に見られた組織(規約や会員)・事業(計画や予算)というくりでは見えにくくなっているのです。こうした状況をふまえ、新たな巻き込みを広げるための関係作りや、施設の役割などについて事例発表をもとに意見交換を行いました。活動意識もあり、地域から発信する姿をとおして、若者から始まるイノベーションとその可能性が共有されました。



## 2014九州環境教育ミーティング in 波野

- 開催日 平成26年3月1日(土)、2日(日)
- 会場 なみの高原やすらぎ交流館
- 主催 九州環境教育ミーティング
- 共催 九州環境パートナーシップオフィス(EPO九州)  
公益社団法人 日本環境教育フォーラム

今年で18回目を迎える「九州環境教育ミーティング」。九州において環境教育に興味や関心のある個人・団体の経験交流・出会いの場として、毎年3月に開催。EPO九州は、本部事務局として関わっています。今回の舞台となったのは、熊本県阿蘇市・波野。阿蘇の外輪山を望み、昔から火山や台風などの影響を受けながら、どのように人と自然が関わり、これまでの地域の生業を形成してきたのかを体感します。初日は、波野小学校子ども神楽クラブの演舞で華やかにスタートし、その後、地域を歩くことで地域資源を知ることができる内容や、農業や放牧、そばといったテーマなど6つの分科会を通して、交流と学びを深めました。

- 第1分科会  
阿蘇の波野でセンス・オブ・ワンダー
- 第2分科会  
波野の地形と伝統がつくる農業
- 第3分科会  
草原を守る牛と人の物語
- 第4分科会  
生活にいづくことわざの知恵と物語
- 第5分科会  
フットパスでめぐる波野のくらし
- 第6分科会  
そばと寄り添う半世紀  
～身近な環境教育を  
「波野そば」から考える～



## 九州環境市民フォーラム in 福岡・新宮 『あつまル・ひろマル・はじマル人丸公園からカンガエル』

- 開催日 平成26年2月22日(土)、23日(日)
- 会場 シーオーレ新宮(22日)、そびあしんぐ(23日)
- 主催 「九州環境市民フォーラムin福岡・新宮」実行委員会  
NPO法人九州環境サポートセンター
- 共催 一般財団法人セブン-イレブン記念財団  
九州環境パートナーシップオフィス(EPO九州)

九州各地で環境ボランティア活動に取り組む団体や人が集まり、情報交換、交流するプログラムです。2002年からスタートした『環境ボランティア会議』も今年で10回目を迎え、『九州環境市民フォーラム』と名を改め、福岡県新宮町で開催されました。新宮町の人丸公園を切り口に、1日目にはシンポジウムを通して、住民参加のまちづくりについて学び、ウォーキングを楽しみました。2日目には和白山干潟や白砂青松、資源循環などのテーマを設けた7つの分科会に分かれ、ワークショップやアクティビティを行い、それぞれに学びを得ました。最後の全体会では、それぞれの分科会の発表を行った後、さらに理解を深めるために、ワールドカフェ形式で発表時に伝えきれなかったことや疑問に思ったことなどの意見交換を実施。それぞれの団体、個人の活動の場で活かすことができるアイデアなどが共有されました。



## ● 使用済小型電子機器等のリサイクルについて .....

有用金属が含まれる使用済小型家電は、その多くが廃棄されている状況にあることから、使用済小型家電のリサイクルにより資源確保、ごみの減量化、有害物質管理を含む、循環型社会形成の推進を目的として「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」(小型家電リサイクル法)が平成25年4月1日に施行されました。使用済小型家電の多くは一般家庭から排出されているので、市町村が主体となり回収するよう努めなければならないこととなっています。現在、九州管内でも使用済小型家電の回収に取り組む市町村が増えてきていますので、使用済小型家電をお持ちの方はご協力をお願いします。なお、市町村によって、回収方法や品目が異なりますので、お住まいの市町村(地方自治体)にお問い合わせ下さい。



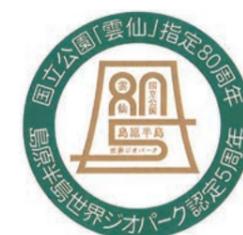
## ● ESDに関するユネスコ世界会議が開催されます。.....

2002年のヨハネスブルグサミットで日本が提唱し、2005年にスタートした「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」が今年、最終年を迎え、締めくくりとなる世界会議が11月に日本で開催されます。11月4日から8日までは岡山市で、国連機関、研究者、学校関係者などの各種ステークホルダーによる会議が、11月10日から12日には名古屋市で閣僚級会合、全体の取りまとめ会合が予定されています。環境省、文部科学省は、ESDの広報に当たり連携を図っていくため、両省のマスコットキャラクターをコラボレーションしたキャラクターを作成しました。今後、様々な機会を活用していきながらESDの周知を図っていきます。



## ● 今年(2014)は、日本で国立公園が誕生して80周年を迎えます。.....

九州では、瀬戸内海国立公園、雲仙天草国立公園(雲仙地域)、霧島錦江湾国立公園(霧島地域)が昭和9年3月16日に、阿蘇くじゅう国立公園は同年12月4日に指定され、今年、80周年を迎えます。九州各地で記念行事が開催されますので、日本を代表する自然風景地・国立公園を訪れ、自然とふれあってみませんか。①雄大なカルデラと広大な草原が広がる「阿蘇くじゅう国立公園」では、南阿蘇ビジターセンターリニューアル(4月)、やまなみハイウェイ開通50周年記念イベント、くじゅうの自然に感謝する日(10月)、全国草原サミット・シンポジウム(11月)など。②雲仙岳と三方の海が織りなすパノラマが楽しめる「雲仙天草国立公園」の「雲仙地域」では、5月に始まる「雲仙岳百景」フォトコンテスト、『あの人に会いたい』島原半島女子旅ツアー、記念式典(雲仙ゴルフ場:8月23日)、秋に行われる島原半島ツーデーウォーキングフェスタなど。③霊峰高千穂の峰を始め、火山群が広がる「霧島錦江湾国立公園」の「霧島地域」では、四季ごとに魅力があります。春はキリシマミズキ、ノカイドウ、ミヤマキリシマ等の花々、夏は緑に覆われた雄大な火山、秋は火口湖に写る木々の紅葉、冬は一面の雪景色など。



## ● 荒尾干潟ワイズユース基本計画が作成されました。.....

平成24年7月に「ラムサール条約湿地」に登録された荒尾干潟について、平成25年度、有識者、民間団体等で構成される「荒尾干潟ワイズユース検討会」を開催し、荒尾干潟の保全及び賢明な利用(ワイズユース)に関する方策について話し合い「荒尾干潟ワイズユース基本計画」を作成しました。今後は、当該計画に基づき、各主体において、荒尾干潟のワイズユースに関する取組が推進されることが期待されます。